

- 問1 市町村立図書館の蔵書数に大きな格差が存在し、県立図書館の図書貸出の地区別比率においても特定地域への偏りが見られる課題を解決するための都道府県立図書館の取り組みとして、最も適当なものはどれですか。 (2023年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 市町村立図書館への図書の巡回貸出や資料相互貸出の仕組みを整え、地域に関わらず資料にアクセスできる体制をつくること。 | 2. 貸出の地区別比率が低い遠方の自治体に対しては支援を縮小し、利用者の多い県立図書館周辺の蔵書拡充を図ること。 | 3. 各地域の分類別図書貸出冊数に基づき、人気のある特定のジャンルの本だけを市町村立図書館に貸し出すこと。 | 4. 住民からのレファレンス件数が多い特定の市町村立図書館にのみ、追加の予算と図書を配分すること。 |
|--|--|---|---|
- 問2 愛知県を中心に伊勢湾沿岸へ広がり、豊田市などでの自動車産業が盛んな日本最大の工業集積地の名称として、最も適切なものはどれか。 (2019年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 阪神工業地帯 | 2. 京浜工業地帯 | 3. 中京工業地帯 | 4. 東海工業地域 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
- 問3 日本の製鉄所の立地に関する説明として、原料の調達環境と関連付けて述べたものとして正しいものはどれですか。 (2022年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. かつては国内の炭鉱に近い場所に立地していたが、現在は原料を全てリサイクルでまかなうため都市部に立地している。 | 2. 主要な原料である鉄鉱石を海外から輸入するため、港湾設備が整った臨海部に工場を建設している。 | 3. 原料が軽量で輸送が容易なため、地価の安い内陸の高速道路インターチェンジ付近に立地している。 | 4. 鉄鉱石の産地が国内の内陸部に集中しているため、輸送コストを抑えるために内陸の工業地域に立地している。 |
|---|--|--|---|
- 問4 地方都市における景観の観察記録に基づき、中心市街地の商店が閉店している地点から離れ、山に囲まれた高台へ移動した際に見られる、多くの戸建て住宅が立ち並ぶエリアの呼び名として、最も適切な土地利用の名称はどれですか。 (2024年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|--------|-----------|
| 1. 工業地域 | 2. 商業地区 | 3. 住宅地 | 4. 森林保全区域 |
|---------|---------|--------|-----------|
- 問5 日本の工業構造の変化について、1970年代から現代に至るまでの各部門の出荷額の割合の推移を説明した文として、正しいものはどれですか。 (2023年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 繊維工業の出荷額が右肩上がり増加し、機械工業を上回る主要な輸出産業となった。 | 2. 化学工業の出荷額が1970年代と比較して極端に減少し、国内の製造業における地位を失った。 | 3. 機械工業の割合が大幅に増加する一方で、かつて主要産業であった繊維工業の割合が激減した。 | 4. 重化学工業の割合が全体的に縮小し、代わって食料品工業などの軽工業が最大の割合を占めるようになった。 |
|---|---|--|--|
- 問6 日本の果樹栽培に関する統計において、収穫量が全国1位の山梨県で約3万5千トンに達し、全国合計でも16万トンを超える規模で生産されている果実があります。この果実の栽培が盛んな、山から流れ出た土砂が平地との境目に堆積して形成された、水はけの良い地形を何といいますか。 (2023年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|--------|-------|
| 1. 干拓地 | 2. 扇状地 | 3. 三角州 | 4. 台地 |
|--------|--------|--------|-------|
- 問7 農林漁業者が、自ら生産した農作物などの「第一次産業」に加え、食品加工などの「第二次産業」、さらには流通・販売などの「第三次産業」までを一体的に行う取り組みがあります。これらの産業の数字を掛け合わせた名称で呼ばれる、農村の所得向上を目指した取り組みを何といいますか。 (2022年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|-----------|---------|---------|
| 1. 六次産業化 | 2. スマート農業 | 3. 近郊農業 | 4. 地産地消 |
|----------|-----------|---------|---------|
- 問8 日本国内における水産物の需要低下に対応するため、宮崎県などの自治体や水産事業者が行っている取り組みの説明として、最も適切なものを次のうちから1つ選んでください。 (2022年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------|-------------------------------|------------------------------|------------------------------|
| 1. 国内で消費する全水産物を輸入に切り替える取り組み | 2. 沿岸地域で行う遠洋漁業の規模を大幅に縮小する取り組み | 3. 海外市場に向けた水産物の輸出拡大を推進する取り組み | 4. 水産物の国内における購入量を法的に制限する取り組み |
|-----------------------------|-------------------------------|------------------------------|------------------------------|
- 問9 地図上で愛知県や伊勢湾沿岸部に主な都市が位置し、日本一の工業製品出荷額を誇る東海工業地域の特徴について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2019年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|--|----------------------------------|------------------------------------|--|
| 1. 四日市市を中心に石油化学コンビナートがあり、化学工業が全体の過半数を占める | 2. 中小工場が密集しており、出版・印刷業の割合が全国で最も高い | 3. 豊田市周辺に自動車関連工場が集中し、機械工業の割合が極めて高い | 4. かつては製鉄業が中心であったが、現在はIC（集積回路）の生産に特化している |
|--|----------------------------------|------------------------------------|--|
- 問10 日本のエネルギー資源の輸入状況について、2017年の統計では、ある国が石炭の輸入全体の約61.8%、天然ガスの輸入全体の約30.7%を占め、いずれの資源においても最大の輸入相手国となっています。この国はどこですか。 (2019年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|-------|---------|------------|
| 1. オーストラリア | 2. 中国 | 3. アメリカ | 4. サウジアラビア |
|------------|-------|---------|------------|
- 問11 観光地における道路整備は、観光客の利便性向上だけでなく、環境保全の側面からも推進されることがあります。渋滞によって車の速度が通常の4分の1に低下すると、環境への負荷（排ガス等）が約2倍になるというデータに基づいたとき、道路整備が環境負荷の軽減につながる理由として適切なものはどれですか。 (2018年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 道路建設によって森林を伐採し、二酸化炭素の吸収源を減らすことができるから。 | 2. 道路を拡張してより多くの大型バスを受け入れ、自家用車の利用を禁止するから。 | 3. 道路整備による財政負担を増やすことで、結果的に村全体のエネルギー消費量を減らすから。 | 4. 渋滞を解消して車の走行速度を上げること、排ガスの排出量を抑制できるから。 |
|--|--|---|---|
- 問12 原油や天然ガスなどの鉱産資源の輸出が総輸出額の大部分を占める国において、このような貿易構造がもたらす影響や課題に関する説明として最も適切なものを選びなさい。 (2026年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|------------------------------------|--|---|
| 1. 国内の工業化が急速に進むため、機械類などの輸出品目が多角化しやすい。 | 2. 製品の加工度の高さにより、常に安定した利益を得ることができる。 | 3. 資源の国際価格の変動が、自国の経済や国家財政に直接大きな影響を与えやすい。 | 4. 天候不順や害虫の発生によって、毎年の輸出品の生産量が大きく変化しやすい。 |
|---------------------------------------|------------------------------------|--|---|
- 問13 二酸化炭素の排出を抑える再生可能エネルギーの一つである地熱発電について、日本の地理的条件と関連付けた説明として最も適切なものはどれか。 (2025年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 一年を通じて安定した風が吹く地形が必要なため、主に東北地方の沿岸部に集中している。 | 2. 河川の急峻な流れを利用するため、山間部でダムを建設して大規模に展開されている。 | 3. 火山の地下にある熱源を利用するため、大分県を含む九州地方などで盛んに発電が行われている。 | 4. 広大な土地と長い日照時間が必要なため、内陸盆地や降水量の少ない地域に建設される。 |
|--|--|---|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 市町村立図書館への図書の巡回貸出や資料相互貸出の仕組みを整え、地域に関わらず資料にアクセスできる体制をつくること。	都道府県立図書館は、自治体間の蔵書数格差や利用者の地域的偏りを踏まえ、市町村立図書館への図書の巡回貸出や相互貸出などの広域的な支援を行っています。これにより、利用者がどの地域に住んでいても均等な読書環境を得られるようにしています。
問2	答え 4 東海工業地域	この地域は愛知県を中心に静岡県西部や三重県北部にまで工業機能が広がっており、現在では日本最大の工業製品出荷額を誇っている。かつては四大工業地帯の一つとして「中京工業地帯」と呼ばれていたが、工業地域の範囲拡大や生産額の増大に伴い、現在ではより広域的な「東海工業地域」という呼称が用いられる。
問3	答え 2 主要な原料である鉄鉱石を海外から輸入するため、港湾設備が整った臨海部に工場を建設している。	日本の工業統計や地図上の分布を確認すると、大規模な製鉄所は京浜、中京、阪神、瀬戸内などの工業地帯・地域に多く見られます。これは、鉄鉱石や石炭を積んだ大型貨物船が海外から到着した際、そのまま工場の岸壁で荷揚げを行うことで、国内の陸上輸送コストを最小限に抑える仕組みになっています。内陸部は地価や騒音の面では有利かもしれませんが、重量物の搬入には適さないため、製鉄所の立地としては一般的ではありません。
問4	答え 3 住宅地	地形図や実際の景観において、山の近くや高台に計画的に造成され、多くの戸建ての家々が集まっている場所は住宅地として利用されています。地方都市では、中心市街地での商業的な土地利用が衰退する一方で、生活の拠点となる場所が周辺部の高台などへ広がる傾向が見られます。
問5	答え 3 機械工業の割合が大幅に増加する一方で、かつて主要産業であった繊維工業の割合が激減した。	高度経済成長期以降、日本では産業の高度化が進み、金属・化学・機械などの重化学工業が経済を牽引するようになりました。その過程で、戦前から戦後にかけて日本の輸出を支えていた繊維工業などの軽工業は、安価な海外製品の流入や産業構造の転換によって、出荷額に占める割合を大幅に低下させました。
問6	答え 2 扇状地	山梨県は日本最大のぶどうの産地であり、特に甲府盆地の周囲に形成された扇状地を利用して栽培が行われています。扇状地は砂礫質で水はけが非常に良く、果樹の根が腐りにくいため、ぶどうやももなどの栽培に最適です。
問7	答え 1 六次産業化	第一次・第二次・第三次の各産業を掛け合わせる（1×2×3＝6）という意味から名付けられました。単に農作物を出荷するだけでなく、自ら加工や販売までを手がけることで、生産者自身の利益を増やし、地域の雇用を生み出すことが期待されています。
問8	答え 3 海外市場に向けた水産物の輸出拡大を推進する取り組み	人口推移や購入量の変化に伴い国内市場が縮小する中、宮崎県をはじめとする地域では、新たな需要を獲得するために海外への水産物の輸出拡大を目指した取り組みが進められています。
問9	答え 3 豊田市周辺に自動車関連工場が集中し、機械工業の割合が極めて高い	東海工業地域は、豊田市を中心とする自動車産業が産業構造の中核を担っており、輸送用機械などの機械工業の割合が非常に高いのが最大の特徴である。四日市市には石油化学コンビナートが存在するが、地域全体の出荷額構成比で見ると自動車産業（機械工業）の割合が圧倒的である。
問10	答え 1 オーストラリア	日本はエネルギー資源の多くを海外からの輸入に依存しています。オーストラリアは広大な国土に豊富な鉱産資源を有しており、日本にとって石炭や天然ガスのほか、鉄鉱石などの重要な供給源となっています。特に石炭では輸入量の6割以上を占めるなど、日本の産業や発電を支える極めて重要なパートナーです。
問11	答え 4 渋滞を解消して車の走行速度を上げることで、排ガスの排出量を抑制できるから。	自動車は低速での走行やアイドリング状態が続くと、燃料消費効率が悪くなり、排出ガスの量が増加します。道路整備によって交通の流れがスムーズになり、走行速度が適正に保たれることは、二酸化炭素や窒素酸化物の排出を抑え、観光地周辺の自然環境を守ることにつながります。
問12	答え 3 資源の国際価格の変動が、自国の経済や国家財政に直接大きな影響を与えやすい。	特定鉱産資源の輸出に依存する国では、その資源の国際価格が下落した際に輸出額が激減し、国家財政や国内経済が不安定になりやすいという課題があります。
問13	答え 3 火山の地下にある熱源を利用するため、大分県を含む九州地方などで盛んに発電が行われている。	地熱発電は、地下のマグマの熱によって温められた蒸気を利用するため、火山の多い地域が適地となります。日本では九州地方に全国の約六割の発電が集中しており、大分県にある八丁原発電所などがその代表例です。天候に左右されず24時間安定して発電できる点が、他の再生可能エネルギーにはない大きな長所です。